

「労働災害減少のための安全装置等の開発に関する調査」概要まとめ

(第三次産業における労働災害発生状況等アンケート調査結果)

小売業をはじめとする第三次産業で多発している転倒、墜落・転落、手指の切れ・こすれなどの災害発生状況等について調査した結果（1, 350事業場へアンケート実施（回答率20%））

1. アンケートで得られた業種ごとの事故防止への対応策について

業種ごとの労働災害への対策について（災害類型別）

(本調査での災害発生件数、事業場で講じられている対策を多い順に記載)

小売業における対策	飲食店における対策	社会福祉施設における対策
1. 切れ・こすれ災害 (1) 作業手順の見直し (2) 注意喚起表示 (3) 教育の実施	1. 切れ・こすれ災害 (1) 作業手順の見直し (2) 教育の実施 (3) 注意喚起表示	1. つまづき等の転倒災害 (1) 整理整頓 (2) 教育の実施 (3) 作業手順の見直し
2. つまづき等の転倒災害 (1) 整理整頓の実施 (2) 注意喚起表示 (3) レイアウト変更	2. やけど災害 (1) 教育の実施 (2) 作業手順の見直し (3) <b>保護手袋の着用</b>	2. 切れ・こすれ災害 (1) 作業手順の見直し (2) 教育の実施 (3) 注意喚起表示
3. 滑りによる転倒災害 (1) 清掃の徹底 (2) <b>滑りにくい靴</b> (3) 作業手順の見直し	3. 滑りによる転倒災害 (1) <b>滑りにくい靴</b> (2) 清掃の徹底 (3) <b>マット・テープの採用</b>	3. 滑りによる転倒災害 (1) 清掃の徹底 (2) 教育の実施 (3) 作業手順の見直し

2. 調査結果から見えてくる災害類別ごとの災害の状況と対策について

適切な保護具等を選定することで防ぐことのできる災害の例

災害類別ごとの災害の状況

<切れ・こすれによる災害について>

各事業場で取られている対策は、作業手順の見直し、教育の実施、注意喚起の表示等の作業者の注意力の依存しているものが大半を占めており、切創防止手袋等の作業者の注意力によらない対策を実施している事業場は少なかった。

<事業場外での転倒災害について>

訪問介護や配達などの事業場外で発生するつまづき等の転倒災害については、作業者の注意による以外の対策が難しいため、転倒した際にその被害を少なくする保護具を着用等の対策が必要である。

<滑りによる転倒災害について>

作業靴については、床の材質と靴底の素材並びにその間にあるもの（水、油、粉体等）の組み合わせに適したものを使用することが重要であるが、適切な靴が使用されていないことが原因で滑りによる転倒災害が発生している場合も多い。

保護具の活用例

切創防止手袋をはめた上に食品衛生法に適した手袋を装着することで、切創災害防止に効果を上げている例。

転倒した際にその被害を最小限にする、安価で動きを阻害しないようなプロテクター等を装着する例。

(参考：事業場内では・・・)

費用をあまりかけずに実施可能な、整理・整頓の徹底や作業手順書の見直し、危険表示による注意喚起を行うことにより一定の効果を上げている。

作業靴についてもデザインだけではなく、メーカーに問い合わせる等して、作業内容から想定される転倒防止に適した靴を選択している例（スリッパサインの活用等）。

